

本市では、これまで最上位計画である広島市総合計画の下、各部門計画を策定し、それに基づいて事業を推進してきたところである。

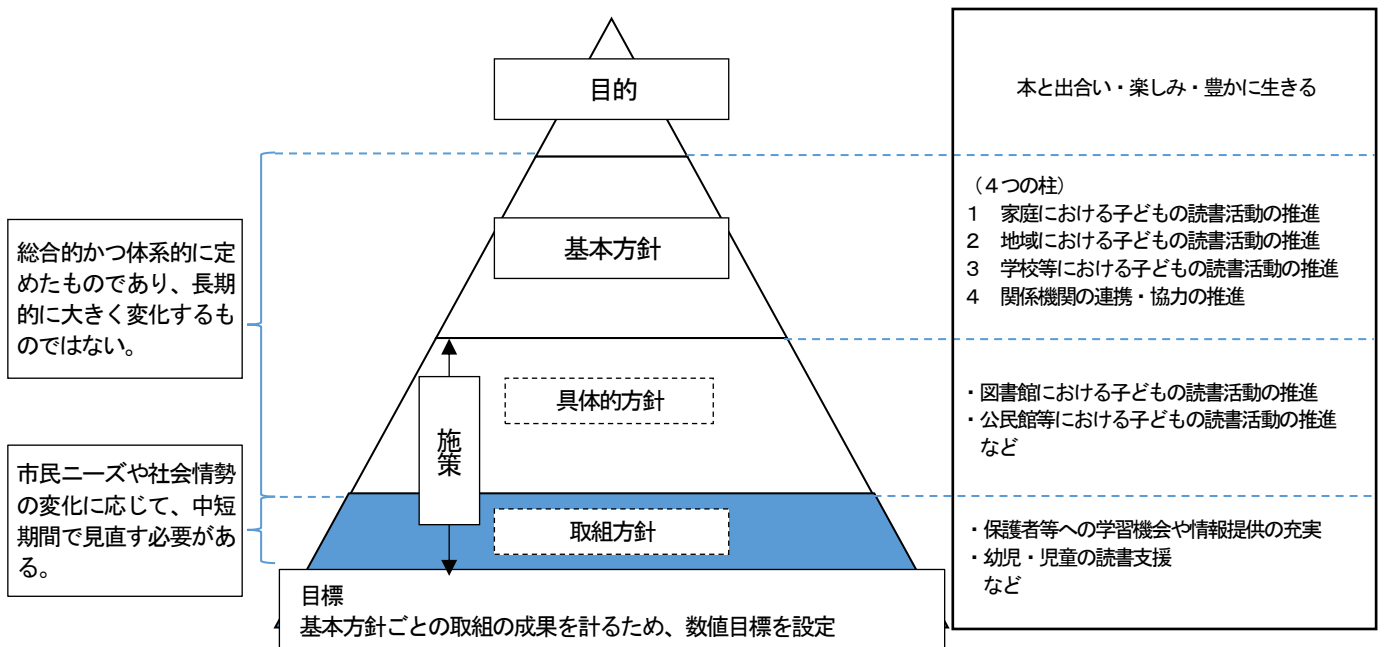
しかしながら、今後の本市の事業展開の在り方として、単に中長期の「計画書」を作成すれば足りるということではなく、社会情勢の変化に敏感かつ的確に対応することが不可欠となっており、政策の企画立案もそれに応じ、根本的な考察を十分に行い、関連部局の連携を強化しながら、真に必要な対策を機動的に行うことが求められている。

このような中、現行の「広島市子どもの読書活動推進計画」の計画期間が令和2年度に終了することから、令和3年度以降の取組方法について、次のとおり進めることとする。

(1) 現行広島市子どもの読書活動推進計画における施策体系及び見直しの視点

- ・ 現行の広島市子どもの読書活動推進計画は、計画の基本的な考え方（目的）の実現に向けて、関係者が共通認識を持って協力し、取組をより一層効果的・効率的に推進できるよう、4つの柱を基本方針とし、基本方針毎に施策を総合的かつ体系的に定めたものである。
- ・ 基本方針であるこの骨格部分については、過去3回の計画策定において、十分に検討していることに加え、既に本市で定着しており、今後長期的に大きく変化するものではない。
- ・ 国の子供の読書活動の推進に関する基本的な計画は、市町村に計画策定を通じて「子供の読書活動の推進が家庭、地域、学校等を通じた社会全体で取り組まれるよう、必要な体制を整備すること」を期待しているが、本市においては、上記基本方針に基づき、教育委員会や福祉部局、学校、図書館、公民館等の関係者が共通認識を持って取組を推進しており、必要な体制づくりは完了している。
- ・ 今後、子どもの読書活動の推進をさらに効果的・効率的に行うためには、関係者と共通課題を見据え、個別具体的な取り組みを検討する方法にシフトする必要がある。

【現行子どもの読書活動推進計画における施策体系及び見直しの視点イメージ図】



(2) 今後の子どもの読書活動推進の取組方法

- ・ (1)の視点を踏まえ、施策の方向性は時点修正等に留めるなど現行計画の枠組みを維持することとし、具体的な施策の検討により注力していくこととする。
- ・ その取組方法としては、関係課において施策の効果を評価し、図書館協議会からの意見を踏まえながら具体的な取組について検討する。

また、施策の実施に当たっては、別紙1のとおり、数値目標等を定め、関係者と共通認識を持って具体的な施策に取り組むとともに、その成果を測定する。